



岩手県一関市 中里まちづくり協議会
会長 辻山 慶治

1 はじめに

一関市は岩手県の最南端に位置し、私達の住む中里地域は、平地は水害常襲地、山際は地滑りなどにより幾度となく大きな被害を受けてきました。

築堤や砂防ダムの設置など治水・治山工事が進む中、世代交代と相俟って住民の防災意識が希薄となり、平成20年岩手・宮城内陸地震や平成23年東日本大震災時に甚大な被害があったにもかかわらず、地元消防団による住民の安否確認や被害調査はありましたが、平成19年に結成した3自主防災クラブなど住民による活動は皆無に等しい状況でした。

2 動き出した住民・地域

東日本大震災後、災害時の対応を憂慮した行政区長（13行政区）や自主防災クラブ関係者が今までの活動を総括し、

- 1 防災・減災活動は地域全体での取組が必要であること

- 2 体系化した取組が防災力向上に不可欠であること

を確認し、防災訓練や防災資機材の整備を進めながら、平成25年には文部科学省の支援を受けて、住民アンケートや全戸に配付した防災マップ、防災ハンドブック作成などの「地域の社会特性や災害特性を知る事業」、公民館（現市民センター）での防災講座や少年・少女避難所疑似体験、地域防災リーダーの養成、行政区毎災害対策本部設置・運営訓練、避難所設置・運営訓練などの「教育研修・訓練に関する事業」、中里地区運動会での防災デモンストレーションや1年間の事業を記録したDVDの作成、行政区毎防災マップの作成などの「その他事業」を行政区長会、各自主防災クラブ、消防団、婦人消防協力隊、小学校、中学校、民生児童委員協議会、福祉活動推進協議会、公民館（現市民センター）などで構成する実施本部を設置して行いました。



防災訓練「避難所は地域で運営」



防災訓練「ツナ缶照明づくり」

3 中里まちづくり協議会の発足

平成27年2月、13行政区と地域内18団体で構成する中里まちづくり協議会を設立し、同年7月には「ひとが輝き 地域が輝くまちづくり」を基本理念とした中里まちづくり計画を策定し、事業実施のため第1プロジェクト（コミュニティの活性化等）、第2プロジェクト（安全・安心の確保等）、第3プロジェクト（地域環境の保全等）及び青年層の地域活動を促すため40歳以下住民で組織する未来プロジェクト（若年層課題解決事業等）を各チームが互いに連携して事業を推進しています。

まちづくり協議会と各自主防災クラブが実施計画を定めて毎年度行っている防災訓練は9時から12時30分児童、14時から17時30分住民（中学生含む。）を対象に行い、児童の指導は未来プロジェクトやPTA、消防団、自主防災クラブ、女性を中心とした神楽伝承グループ中里鶏舞踊り隊、読み聞かせ「んだね ほんだね」の会員が積極的に行っています。

また、子どもの安全な居場所づくりのため市民センターで行っている放課後子ども教室でも、安全教育の一環として防災探検マップを児童が作成する際においても指導員や住民が深く関わり指導して、児童の防災意識を醸成するとともに、これらの活動により地域コミュニティの強化が図られ、多くの住民が参画しての体系づけた防災・減災活動によって地域の災害対応力の向上が図られ、地域全体が活性化していると実感しています。

4 心がけている地域防災

私達は、「市の防災力は行政の防災力と住民の災害対応力で決定する。」ことを念頭に今までの活動に加えて、平成30年度からは、高齢者の閉じこもり者をなくし、高齢者が社会参加や地域活動を通じて、仲間づくりをしながら活力と希望をもって住み慣れた中里で自分らしく暮らし続ける事が出来るようにすることや災害時避難行動要支援者の支援をするため「エイジフレンドリーナカサト事業」を第2プロジェクトが中心に推進し、地域防災力を高めることに大きく寄与しています。

また、市の防災力の一翼を担うとともに地域防災の中核となっている消防団の悩みの種である団員確保についても地域全体で取り組みたいと考えています。



エイジフレンドリーナカサト事業「サポーターの皆さん」



夏祭り「若い皆さんが盛り上げています」